



利用者さんの作品が、
玄関で皆さんをお迎えし



分け隔てなく

施設長 貝沼 寿夫

早いもので今年のカレンダーも、残り半分になりました。これから夏本番を迎えますが、今年も良い年だと終えられるようあと半年充実させていきたいと思っています。大変残念なことですが、先日ライフパートナーこぶしに通所されている利用者様が急逝されました。前日まで元気に通われており、あまりに急なことでは驚きと悲しみでしばらくは茫然とした日々を過ごしました。この紙面をお借りいたしましたので、亡くなられた利用者様、ご家族の方に改めてお悔やみ申し上げます。

その方とは、中華街でバイキングを楽しんだり、遊園地に旅行に行ったり、生活しているグループホームにお邪魔したりと、様々な思い出があります。そんな思い出の中でも、印象的なことは、特別なことではなく日常のことばかりです。利用者さんの中で、1番最初に名前を覚えてくれたこと。毎日、グループホームでの様子や昼食の話をしてくれたこと。いつかは、清瀬の事業所に行つて、グループホームの他の利用者さんと一緒に働きたいと言ってくれたこと。今もそれぞれの場面が鮮明に思い起こされます。私にとってその方は、癒しが得られる存在であり、安心感を与えてもらえる存在だったと思います。ご葬儀の際、職員が最後のメッセージを寄せ書きにして、棺に入れていただきた。「最初に名前を呼んでくれて、ありがとうございました。」「出勤した際、いつも最

初に話しかけてくれました。」ほとんどの職員のメッセージは、同じことが書かれています。これは、その方が私を含めた職員一人ひとり、いつも同じ対応・同じ態度だったということだと思えます。分け隔てなく他者と関わることで、人に安心感を与える存在になるということを、その方から学ばせていただきました。ありがとうございました。

ライフパートナーこぶしは、利用者の方々にとっては、生活の場であり活動する場です。また、職員にとっては働く場でもあります。利用者・職員ともにライフパートナーこぶしは、安心安全の場ではなくてはなりません。

利用者さんは、自閉症の方もいれば、ダウン症・またその他の症候群など様々な障害をお持ちです。年齢も20歳から70歳まで幅広い年齢層の方に利用していただいています。当然一人ひとりのこれまでの人生の歩み方も、どれ一つ同じものはありません。このライフパートナーこぶしを利用して良かった。安心して生活や活動することが出来る。そんな安心安全の場になるためには、あの利用者さんのように一人ひとりの違いを認め、分け隔てなく一人ひとりを大切に支援させていただくことが必要だと思えます。

利用者にとっても、職員にとっても、そして利用者・職員のお互いで、ライフパートナーこぶしは、分け隔てなく関わることが出来る安心安全の場でありたいものです。

意識の効果

夏の始まりを迎え、日差しが強い中でも凜と咲くひまわりを見ることが出来ると思うと、毎日がそれだけで楽しい気分になってきます。

私の通勤経路には小学校、中学校そして保育園があり毎朝賑わいを見せています。

小学生は複数で活発な動きを見せながら友達と楽しそうにおしゃべりをして歩いています。中学生になると二人ぐらいで肩を寄せ合い周りには聞こえないような声で話をしてしています。また、中学のグラウンドでは朝練を行う部活の生徒が誰かに見せるためではなく、ただ懸命に汗を流しています。そして、保育園では小さな子供たちが様々な遊具を使って無邪気に遊んでいます。

それぞれの子供は、誰かにその存在を見せるためではなく、ただ自分たちが楽しい時間を過ごしていることを豊かな表情で表しています。そこにある笑顔は計算されたものではなく、純粹に充実した時間を過ごしていることを感じさせてくれる。朝、一瞬すれ違うだけの笑顔から、私はたくさんのパワーをもらうことが出来るのです。

先日息子より学校で聞いたことを教えてもらうことがありました。それは「学ぶことは年齢には関係なく、自分が学び続けようという気持ちでいることが大切だ。」ということでした。

先生は私に対してその発言をした訳ではありませんが、それを教えてもらった息子は私に必要だと感じて、その言葉をくれたのです。言い訳ばかりを考えがちになっている私にとっては、気持ちを持ち続けることの大切さを教わりました。

日々の生活の中では、関わりのある人だけが自分に対して影響があると考えがちです。しかし、無意識のうちに誰か予想もしない相手に対して良い効果が発生していることがあります。

自分では何でもないと感じることで、プラスと感じてくれる相手がいるかもしれない。そんなことを意識しながら毎日を過ごしていけたら、もっと生活が豊かになる。そのことに気づく機会を得られたことを大切に、この夏を楽しんでいきたいと思えます。

総務事務部長 小松崎 希史子



かたち

毎週火曜日の活動プログラムでは、パラバルーンと宝探しゲームを実施している。ここ最近、ようやく『形』になりつつあると実感できるようになってきた。それは、ご利用者自身が活動の準備から加わり、参加意識を向け個々での役割を率先して担い、活動を通じて飛躍している姿が以前にも増してきたからだ。

ここまで来るのに時間を要し本音ではまだまだ満足していない。しかし、開始当初と比べると、自分自身の活動に対する向き合い方や改善点などこれからは新たなアイデアが尽きることはない。まだまだ、これから。そう自分に言い聞かせ、今後も毎週火曜日のプログラムでは、『形』を変えながら常に理想とする『形』をイメージに抱きつつ工夫を加えていきたいと思っている。

生活支援員 山賀 真実子

ご寄附頂きました

ライフパートナーこぶし保護者会
日帰り旅行 200,000 円、お茶代 30,000 円 有効に使わせていただきます。
保護者会の皆様には、6月10日に大掃除も実施して頂きました。ありがとうございました。

フォトニュース

～ 日中活動の様子 ～



“ねえねえ、きいて”



<佐藤幸雄>

ある利用者さんから毎日、「佐藤さん、おはようございます」とこぶしに出勤すると挨拶をしてくれます。この習慣はとても気持ちが良いです。また、名前から呼ばれるのは自分の存在を分かってくれているので、今日1日頑張るぞとの思いを強くさせてくれます。

お腹が痛い時「おなかいたいのかいしょうぶ」、外が寒い時「きょうはさむいねえ、こっちおいで」、退勤する時「ええ、もうかえっちゃうの、さみしい、またきてね」そんな気持ちの優しい言葉を掛けてくれる利用者さんが私は大好きです。

<大鹿 真利会>

あるおやつの日。ある利用者に冗談で「大鹿のおやつも買ってほしいな～」と言ってみる。すると、満面の笑みで口を手で押さえながら、「やーよー」と言いながらもなんだか嬉しそう。そんな何気ない会話の中には笑顔があり、私の活力に！だから私は日々頑張れます😊

何か少しでもお手伝いをすると“ありがとう”という言葉が利用者から自然と出て来る。当たり前的事かもしれないけど、実は“ありがとう”って感謝の言葉が言える事は素晴らしい事だと私は思う。こちらこそ、“いつも沢山の「ありがとう」を有難う御座います！”

4年目を迎えたふわっとん

清瀬事業所と『Café ふわっとん』がオープンして丸3年が経ちました。

今では地域に根差した喫茶店としてお客様に来ていただける『ふわっとん』ですが、開店当初は中々お客様も来店されず、利用者さんと一緒に近隣のお宅のポストにチラシ配りをしたり、呼び込みをしたりと地域の仲間入りする為に努力いたしました。

氷川台サロンでの外部販売を皮切りに、昨年からは、清瀬市役所やコミュニティプラザひまわりでの外部販売を本格的に開始しました。店内での接客がまだ難しい利用者さんも、外部販売では商品の受け渡し、呼び込みと大いに活躍してくれています。今年度からは、更に販売箇所も増え、ますます利用者さんに活躍してもらえる場所が増えました。

私たち職員も、お客様に満足して頂けるよう、季節によってサンドウィッチの味を変えるなど日々努力していきたいと思っております。

生活支援員 高野 奈々